



2023年10月31日

各 位

会社名 富士興産株式会社
代表者名 代表取締役社長 川崎 靖弘
(コード番号 5009 東証スタンダード)
問合せ先 執行役員 経理部長 大橋 亮
(TEL. 03-6859-2050)

2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2023年5月15日に公表した2024年3月期第2四半期連結累計期間(2023年4月1日~2023年9月30日)の業績予想値と本日公表の実績値との差異に関し、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 2024年3月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異(2023年4月1日~2023年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	28,300	350	370	250	38.01
今回実績値(B)	26,152	519	529	373	56.75
増減額(B-A)	△2,147	169	159	123	
増減率(%)	△7.6	48.3	43.0	49.3	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2023年3月期第2四半期)	29,151	153	165	163	24.91

2. 差異の理由

2024年3月期第2四半期連結累計期間の売上高は、石油事業におきまして採算販売に徹したことによる販売数量の減少等により、前回予想を下回りました。

一方、損益面につきましては、北海道道央地域に事業基盤を有するレンタル事業におきまして、堅調な公共事業と、ラピダス株式会社の次世代半導体工場の誘致や北海道新幹線の延伸工事等の民間設備投資の増加により、副次的に建設機材の需要が高まり、大幅に業績が向上いたしました。また、ホームエネルギー事業、リサイクル事業、環境関連事業につきましても、それぞれの事業で計画を上回る業績をあげたことから、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前回予想を大幅に上回りました。

なお、通期の業績予想につきましては、①当社グループの事業は季節変動が大きく、売上高・利益ともに通期に対する第1・2四半期の占める割合が低いこと、②気象庁の予測では、エルニーニョ現象が継続する可能性が高く、暖冬が予想されること、③為替の変動や中東における地政学リスクの高まりから原油価格についての不透明感が増していること、④大手石油元売りにおける製油所の稼働率が低下していること等を考慮し、2023年5月15日に公表した予想値を据え置いております。

業績予想の修正が必要となった場合は、速やかに開示を行います。

(注) 上記の予想はあくまでも本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上